

自治区連会報

第55号

編集発行人

下妻市自治区長連合会
広報編集委員会

地域防災力の向上に向けて

下妻市長 菊池 博

残暑の候、日頃より自治区長連合会の役員の方々をはじめ、代表区長及び自治区長の皆様におかれましては、市民の生活の向上と福祉の増進のため、地域の自治組織の育成・発展や会員相互の情報共有にご尽力を賜り、深く感謝申し上げます。

また、自治区における各種要望のとりまとめや市政運営へのご理解ご協力をいただきありがとうございますこと、重ねて御礼申し上げます。

さて、例年であればこの時節、各自治区による夏祭りなどの様々なイベントの開催は貴重な地域交流の機会となっておりましたが、先のみえないコロナ禍の中で、本市では自粛のお願いをしてまいりました。

地域行事の自粛とともに、コロナ禍による「新しい生活様式」の実践は、できるだけ人と接触せずにコミュニケーションをとることを求め

られ、高齢者をはじめとする情報弱者にとって災害時の安否確認などの新たな問題が発生してきております。

このような中、市ではこれまでの防災情報の発信を見直し、防災行政無線のデジタル化により放送を聞き取り易くするとともに、スマートフォンによる「下妻市防災アプリ」の配信により、放送内容の個別再生や文字で確認することが可能になりました。

また、配信時には音でのプッシュ通知により、緊急時の情報がもれなく瞬時に取得できることや、避難所の確認、河川の水位マップ、市政情報など、平時はもとより災害時の情報確認に役立つことから、多くの市民の皆様が周知をさせていただいているところであります。

今後はこれまでの地震や風水害への対応だけでなく、新たなウイル

下妻市自治区長永年勤続者表彰

地域社会の発展と市民福祉の増進等に寄与した功績により、19名の区長の皆さまが、永年勤続者として表彰されました。おめでとうございます。

○表彰者（5年以上勤続されている方） ※順不同・敬称略

- | | |
|------------------|------------------|
| 落合 英木（相原山代表区長） | 富岡 博（久目・下宮代表区長） |
| 司代 和壽（本宿代表区長） | 黒澤 正（大木代表区長） |
| 荒川 克己（石の宮代表区長） | 外山 一夫（大木田向自治区長） |
| 大塚 正（旭自治区長） | 飯島 宝作（鬼怒代表区長） |
| 稲葉 啓（西町1自治区長） | 猪瀬 憲一（原・羽子代表区長） |
| 井上 暢（上町3自治区長） | 川端 誠（本宗道東自治区長） |
| 小林 裕之（下子町自治区長） | 浅野 茂男（原南自治区長） |
| 吉川 利幸（長塚10自治区長） | 鈴木 静夫（羽子自治区長） |
| 鈴木 要司（福田代表区長） | 荒川 栄（別府本田第1自治区長） |
| 栗原 三郎（下木戸第1代表区長） | |

スへの備えとして、防災意識の見直しとともに、行政と地域が連携し情報弱者、交通弱者など一人も取り残さない体制の再構築が急務であるものと考えております。

各自治区の皆様におかれましては引き続き住民自治と協働のまちづくりの推進、地域防災力の向上にご協力を賜りますようお願い申し上げます。



自治会活動に参加しましょう！

ワンタッチ式テントを購入

— 騰波ノ江支部 —



福代地自治会では、今まで使っていた4本足のさび付いた重いテントに、不具合が生じたことから、社会福祉協議会に相談をしたところ、この度最新のワンタッチ式テントを購入することができました。購入額の8割の助成金をいただきました。

今後、地域のイベントや小学校の運動会、そして災害等の非常時に活躍が期待されています。

季節の花でおもてなし

— 下妻支部 —



下妻市の西の玄関口、長塚西部自治会では、各種団体の協力の下、花壇の管理や夏祭り等の活動に取り組んでいます。今年は、新型コロナウイルス感染防止のために外出自粛や行事の中止等で不安を抱えている方々に、少しでも心が和むようにと願いを込め、長塚商店会の協力により季節の花を植えることができました。今後も自治会と各種団体が連携して、明るく住みよい地域づくりをしていきたいと考えています。

子供会の神輿について

— 上妻支部 —



新型コロナウイルス感染拡大の不安の中で、子供会PTAの皆さんと子どもたちは、桐ヶ瀬天満宮の草刈り、清掃を行い、神輿を境内に供えました。皆さん、ほっとした感じがしておりました。

6月に入り、防災無線から、小学生の下校、部活を終えた中学生が下校する際の放送が久しぶりに聞こえた時は、気持ちが明るくなりました。不安の無い安心した日々が、早く訪れることを願っております。

なごし おおはらえ 夏越の大祓

— 大宝支部 —



6月30日、大宝八幡宮にて神事「夏越の大祓(茅の輪くぐり)」が執り行われた。大祓は、宮中でも古くから行われ、人形の白紙などを用いて身についた穢れを祓い、無病息災を祈り、茅を束ねた輪を神前に立て、これを「水無月の夏越の祓えする人は千歳の命延ぶというなり」などと唱え3回くぐる。半年無事に過ごせたことに感謝するとともに、災厄の原因となる心身の罪穢れを祓い清め、一年の残り半分の平穏を願った。

今回に関しては、コロナの早期終息を願った人も多かったことだろう。

自主防災組織を作りましょう！

弁財天に祈る

— 高道祖支部 —



吉沼と明野を結ぶ県道の、下妻市と筑西市の境界付近に弁財天が祀られている。

県道のラインから小貝川堤防に向かって水田が一面に広がりを見せている。

高道祖の歴史を紐解くと、いつも水との闘いであったと言う。日照の時期は阿弥陀様に雨乞い、風水害除難の予祝等、神に縋って生きてきた。弁財天はインド神話の河川を神格化したもので、「湖を有する、優美なもの」と言う。先人が守りぬいた美しい自然を、後世に引き継ぎたいと神に祈る日々である。

小島草庵跡

— 総上支部 —



浄土真宗の開祖である親鸞聖人が、42歳のときに、妻子を伴い初めて常陸国に居住したのが「小島草庵」だと伝えられています。親鸞は、ここに3年間滞留し、真宗念仏の伝道に積極的に乗り出したとのことで、草庵跡は市指定文化財となっています。

ここには、親鸞聖人お手植えと伝えられる銀杏の巨木があります。この大銀杏は、枝が北向きに伸びていますが、これは稲田の地に移った親鸞を慕ったのことだといわれ、「稲田恋しの銀杏」と名付けられています。

鬼怒フラワーライン

— 千代川支部 —



ゴミの不法投棄などで荒廃していた鬼怒川河川敷を、平成3年「花と万人の会」を中心に、商工会、自治会、地区団体、住民の協力も得て、「鬼怒フラワーライン」として整備しました。「ちょっと素敵なまちづくり」を合言葉に、年間を通じて花畑の管理活動や河川敷のごみ拾い、除草を行い、河川利用者への河川愛護意識の啓発や子供達の自然体験・学習の場として親しまれています。

例年5月のイベント時には、一万人もの来場者が訪れるなど、地域コミュニティの育成・活性化に大きく貢献しています。

柳原地区の環境整備に伴うコキア栽培

— 豊加美支部 —



みなさんご存知のとおり、昨年は茨城国体が開催され市営柳原球場も会場となりました。その前年、市報にてコキアの栽培が推奨されていたことから、柳原地区では、環境整備の一環として、コキアと秋桜を球場入口近くの畑をお借りし栽培しています。

この3年間は、役員さんをはじめ地区を4ブロックに分け、植え付け、除草、片付け等作業をしていますが、地区の皆様方の参加率はとても高く、今後も続けていければと思っています。

自治会に加入しましょう！

令和2年度 自治区長連合会理事名簿

Table with 4 columns: 役職名 (Position), 氏名 (Name), 代表区 (Representative Area), 支部名 (Branch Name). Lists council members and their details.

※幹事以下の役職は「地区順」各支部からの選出名簿順となっています。

活動日誌

◆ 令和2年 ◆
1月25日 自治区連会報(第54号)発行
2月7日 県自治会連合会講演会参加(ひたちなか市)
2月27日 正副会長会議
3月26日 役員会・理事会
4月 自治区長連合会総会【資料送付による開催】
6月1日~3日 永年勤続者表彰
6月12日 正副会長会議
6月18日 役員会・広報編集委員会
6月 県自治会連合会理事会・総会
8月25日 自治区連会報(第55号)発行
【書面表決による開催】
10月8日 市長との対話集会(千代川中学校区)
10月10日 市長との対話集会(下妻中学校区)
10月17日 市長との対話集会(東部中学校区)
10月 小貝川ふれあい公園 花畑種まき作業
11月 正副会長会議・役員会
※予定
・広報編集委員会
※予定



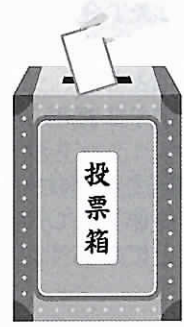
編集後記

昨年八月に区長会が提出した議員定数削減の陳情書は残念ながら継続審議になったことは記憶に新しいところですが、十二月に提出された議員動議によって「次回の選挙から二人削減し定数を十八人とする」議案が可決されました。

しかしながら、今年度予算において委員会活動費が削減された分、政務活動費が月額五千円から一万円に増額となっており、その動向には私たち市民が注視すべきであると考えます。

昨今の報道を賑わす国会議員の振舞いは、あたかも自己の資金のようですが、原資は私たちの税金なのです。そのことを忘れずにいれば、あのような浅はかな行動は慎めたのではないのでしょうか。

国、県、市の議員は私たちの代表者です。その代表者の動きに私たちひとりひとりが関心を持つことが、より良いまちにする第一歩です。



自主防災組織を作りましょう!